

6月30日のウクライナ情報

安齋育郎

① 「ウルスラ・フォン・デア・ライエンは戦争犯罪者だ！」(原伸一、2024年6月25日)

<https://www.youtube.com/shorts/rGeMFJKIfQE?feature=share>



<https://www.youtube.com/shorts/rGeMFJKIfQE>

② ウクライナの強制動員の現実(2024年6月24日)

<https://www.youtube.com/shorts/m1w8LL8aZVs?feature=share>



<https://www.youtube.com/shorts/m1w8LL8aZVs>

③ 「アメリカは武器供与ではなく戦争を終わらせる外交を急げ」 ジェフリー・サックスら米経済学者や退役軍人が米紙に意見広告(国際、2023年5月27日)

米経済学者のジェフリー・サックス(コロンビア大学教授)や元外交官、安全保障専門家、退役軍人らが米紙『ニューヨーク・タイムズ』(5月17日付)にウクライナ戦争をめぐる米国の関与について意見広告を掲載した。掲載された「米国は世界平和のために力をつくすべき」と題する声明では、ウクライナに「必要な限り」軍事支援を約束したバイデン米政府の判断はプーチンによる侵攻判断と同等に破滅的な結果をもたらすものであると厳しく批判し、ロシアを軍事侵攻に踏み切らせた要因は、ロシアの度重なる警告を無視した NATO の勢力圏拡大と挑発にあったと指摘。その背景には兵器産業と結びついた米ネオコン勢力の政策関与があり、それはアフガニスタンやイラクでの失敗を三たびウクライナでくり返し、「米国自身の破滅を招くもの」と警告している。米国内の底流の世論を反映するものとして注目されている。

声明では冒頭、ロシア・ウクライナ戦争がまぎれもない大惨事となり、戦禍の拡大によって人々の命と環境、経済を破壊し、核保有国が関与を強めるなかで世界的な危機を深めていることにふれ、「私たちは暴力、戦争犯罪、無差別ミサイル攻撃、テロリズムとその他の残虐行為を嘆く」が、「この衝撃的な暴力の解決策は、さらなる死と破壊を保証する武器や戦争の拡大ではない」と指摘。

さらに「アメリカ人および国家安全保障の専門家として、私たちはバイデン大統領と議会に、制御不能になる可能性のある軍事的エスカレーションの重大な危険性を考慮し、外交を通じてロシア・ウクライナ戦争を迅速に終わらせるために全力を行使するよう要請する」「ウクライナでのこの悲惨な戦争の直接の原因は、ロシアの侵略だ。それでも、NATO をロシア国境にまで拡大する計画と行動はロシアの恐怖心を刺激した。そしてロシアの指導者たちは 30 年間、この点について訴えてきた。外交の失敗が戦争につながったのだ。現在のロシア・ウクライナ戦争が、ウクライナを破壊し、人類を危険にさらす前に、ロシア・ウクライナ戦争を終わらせるための外交が急務だ」とのべ、次のように続けている。以下、和訳を引用する。

平和への可能性

ロシアの現在の地政学的不安は、チャールズ 12 世、ナポレオン、カイザー、ヒトラーからの侵略の記憶によってつくられている。米軍は、第一次世界大戦後のロシアの内戦で、勝者側に対抗して介入し敗北した連合国の侵略軍の一員であった。ロシアが NATO の拡大と国境への進出を直接的脅威と捉えている一方、米国と NATO は慎重な備えとしか考えていない。外交では、敵を理解しようとする戦略的な共感が必要である。これは弱さではなく、知恵である。

私たちは、平和を希求する外交官が、この場合に、ロシアかウクライナかのどちらかを選ばなければならないという考えを拒否する。外交を支持するさい、私たちは正気の側を選ぶ。人類の側、平和の側だ。

私たちは、ウクライナを「必要なかぎり」支援するというバイデン大統領の約束は、定義が不明確であり、最終的には達成不可能な目標を追求するためのライセンスになると考えている。それは昨年、プーチン大統領が犯罪的な侵略と占領を開始したのと同じくらい破滅的な結果をもたらす可能性がある。私たちは、ウクライナ人の最後の一人までロシアと戦わせるという戦略を支持することはできない。

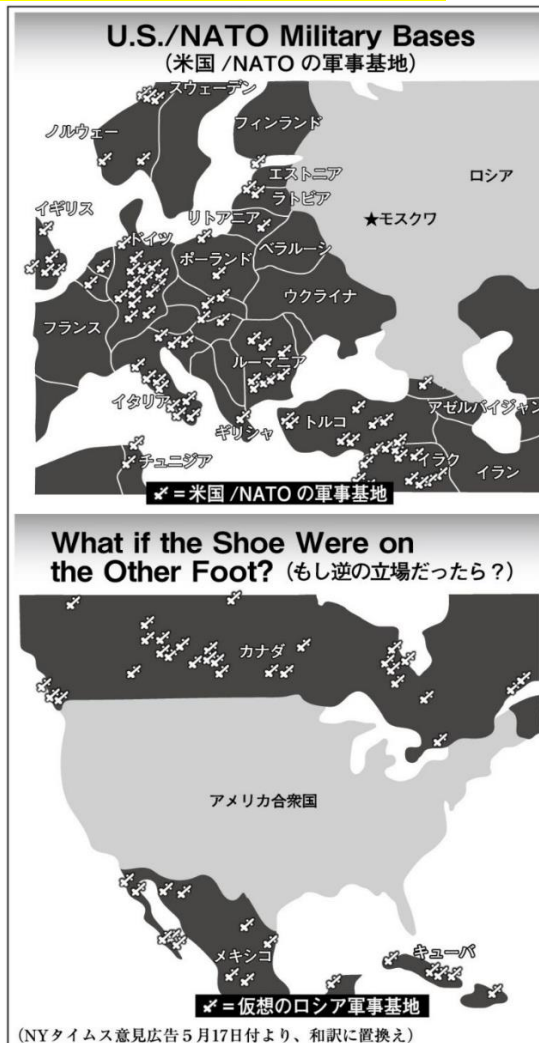
私たちは、外交への真に有意義なコミットメント、とくにいかなる前提条件もともなわない即時停戦および交渉の開始を提唱する。意図的な挑発がロシア・ウクライナ戦争をもたらした。同様に、意図的な外交がそれを終わらせることができる。

米国の行動とロシアのウクライナ侵攻

ソ連邦が崩壊し、冷戦が終結すると、米国と西ヨーロッパの指導者たちは、NATO がロシアの国境に向かって拡大しないことをソ連とロシアの指導者に保証した。「NATO は東方に一インチも拡大しない」——ジェームズ・ベイカー米国務長官(当時)は 1990 年 2 月 9 日にソ連の指導者ミハイル・ゴルバチョフにこう語った。

1990年代を通じて、米国の他の指導者、英国、ドイツ、フランスの指導者からも同様の保証がなされた。

2007年以來、ロシアは、現在の米国にとってメキシコやカナダにロシア軍が駐留したら耐え難いものであるように、また1962年当時、キューバに駐留したソ連のミサイルが米国にとって耐え難いものであったように、ロシア国境でのNATOの軍駐留は耐えられないとくり返し警告してきた。さらにロシアは、ウクライナへのNATOの拡大は極めて挑発的であると特定して主張していたのだ。



ロシアの目を通して戦争を見る

ロシアの戦争に関する見方を理解しようとする私たちの試みは、侵略と占領を是認するものではなく、ロシア側に戦争以外に選択肢がなかったことを示唆するものでもない。しかし、ロシアに他の選択肢があったように、この瞬間に至るまでの米国とNATOにも他の選択肢があった。

ロシアはあらかじめ彼らのレッド・ラインを明確にしていた。グルジア(現ジョージア)とシリアでは、彼らはそれらの線を守るために力行使することを証明した。2014年、クリミアの即時併合とドンバス分離主義者への支援は、彼らが自国の利益を守るという彼らのコミットメントに真剣であることを示した。なぜこれが米国とNATOの指導部に理解されなかったのかは不明だ。無能、傲慢、シニシズム、またはその三つすべての危険な混合物が要因であろうと思われる。

また、冷戦が終結しても、米国の外交官、将軍、政治家は、NATOをロシア国境にまで拡大し、ロシアの勢力圏に悪意を持って干渉することの危険性を警告していたのである。元米政府閣僚の口バー

ト・ゲイツとウィリアム・ペリーは、ジョージ・ケナン、ジャック・マトロック、ヘンリー・キッシンジャーら著名な外交官と同様に、これらの警告を発した。1997年、上級米国外交政策専門家 50 人が、ビル・クリントン大統領に公開書簡を書き、NATO を拡大しないように忠告し、それを「歴史的な政策の過ち」と呼んだ。だが、クリントン大統領はこれらの警告を無視することを選んだ。

ロシア・ウクライナ戦争をめぐる米国の意思決定における傲慢さとマキャベリ的計算を理解するうえで最も重要なのは、ウィリアムズ・バーンズ(現中央情報局長官)が発した警告を無視したことだ。2008年、駐ロシア大使を務めていたバーンズは、コンドリーザ・ライス国務長官に宛てた公電で、NATO の拡大とウクライナの加盟について次のように書いている。

「ウクライナとジョージアの NATO 加盟への意欲は、ロシアの神経を逆なでするだけでなく、この地域の安定に影響をおよぼす深刻な懸念を抱かせる。ロシアは、包囲されると認識し、地域におけるロシアの影響力を弱体化させるものだと認識しているだけではない。ロシアの安全保障上の利益に深刻な影響をおよぼす、予測不能で制御不能な結果を恐れている。専門家によると、ロシアは、NATO 加盟をめぐるウクライナ国内に強い対立があり、ロシア人コミュニティの多くが加盟に反対し、暴力や最悪の場合には内戦を含む大きな分裂につながる可能性があることを特に懸念している。その場合、ロシアは介入するかどうかを決定しなければならない。ロシアが直面したくない決断である」

そのような警告にもかかわらず、なぜ米国は NATO の拡大に固執したのか？

武器販売による利益が主な要因であった。NATO 拡大への反対に直面して、ネオコン(新保守主義)のグループと米国の兵器メーカー最高幹部は、「米国 NATO 拡大委員会」を結成した。1996~98年にかけて、最大手の兵器メーカーはロビー活動に 5100 万ドル(現在では 9400 万ドル)を費やし、キャンペーンへの寄付にさらに数百万ドルを費やした。このような大盤振る舞いによって、NATO の拡大はすぐに既成取引となり、その後、米国の兵器メーカーは NATO の新加盟国に数十億ドルをこえる武器を売りこんだのである。

これまでに米国は 300 億ドル相当の軍事装備と武器をウクライナに送った。ウクライナへの援助総額は 1000 億ドルをこえている。戦争という大騒ぎは、選ばれた少数の人々にとって非常に有益なビジネスである。要するに、NATO の拡大は、レジーム・チェンジ(政権交代)と先制攻撃をちりばめたユニラテラリズム(単独行動主義)を特徴とする軍国主義化であり、米国外交の主要な柱なのだ。

最近では、イラクとアフガニスタンにおける戦争で失敗し、虐殺とさらなる対立を生み出した。米国自身がつくりだした厳しい現実である。ロシア・ウクライナ戦争は、対立と虐殺の新たな舞台を開いた。この現実すべてを私たち自身がつくったものではないが、殺戮を止め、緊張を和らげる外交的解決をつくりだすことに専念しない限り、それは私たちの破滅を招く恐れがある。

米国を世界平和のための力にしよう。

署名者

デニス・フリッツ(アイゼンハワー・メディアネットワーク ディレクター、元米空軍司令部主席曹長)
マシュー・ホー(アイゼンハワー・メディアネットワーク アソシエイトディレクター。元海兵隊将校、元
国務省・国防総省官吏)

ウィリアム・J・アストア(退役米空軍中佐)

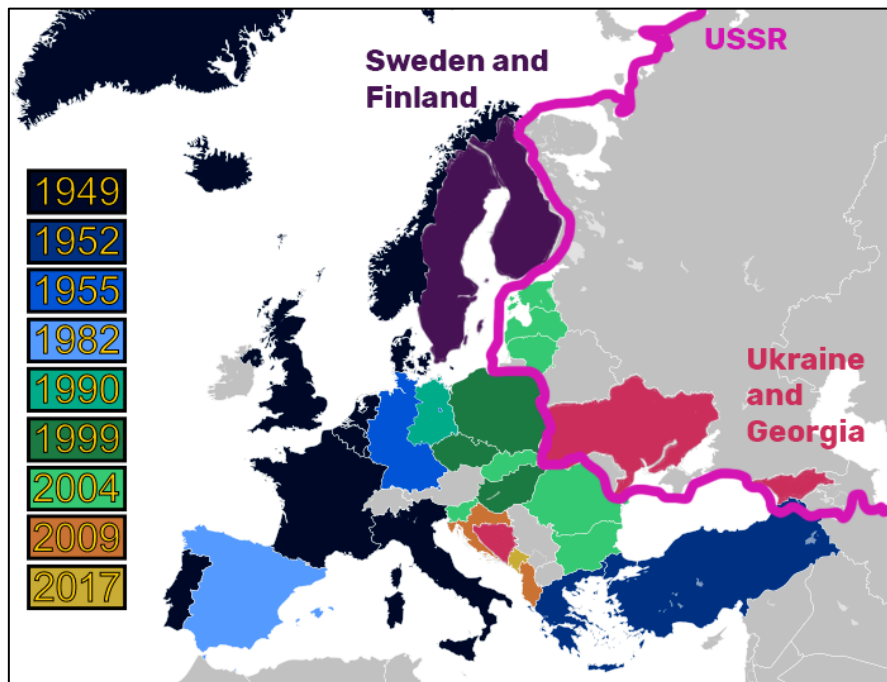
カレン・クビアトコウスキー(退役米空軍中佐)

デニス・ライヒ(元米陸軍少将)

ジャック・マトロック(元ソ連駐在米国大使)
 トッド・E・ピアース(元米陸軍少佐、法務官)
 コリーン・ローリー(元FBI特別捜査官)
 ジェフリー・サックス(コロンビア大学教授)
 クリスチャン・ソレンセン(元米空軍人)
 チャック・スピニー(元国防省技師・アナリスト)
 ウィンスロー・ウィーラー(共和・民主両党の4人の国家安全保障顧問を務める)
 ローレンス・B・ウィルカーソン(元陸軍大佐)
 アン・ライト(元米陸軍大佐、元米国外交官) ※この人は母親大会で衣笠の立命館に来たことがある。

④NATO、ウクライナ戦争は NATO 拡大の戦争であると認める(2023年9月30日)

ジェフリー・サックス



悲惨なベトナム戦争中、米国政府は国民をキノコ農場のように扱い、暗闇に保管し、肥料を与えていたと言われている。英雄的なダニエル・エルズバーグは、真実を知られて当惑する政治家を守るために、戦争について容赦ない米国政府の嘘を記録した国防総省文書を漏洩した。半世紀後のウクライナ戦争では、肥料はさらに高く積み上げられている。

米国政府と常に執拗なニューヨーク・タイムズ紙によれば、ウクライナ戦争は「挑発されていない」ものであり、ニューヨーク・タイムズ紙が戦争を説明するのに好んで使っている形容詞である。プーチン大統領は、自分をピョートル大帝と間違えて、ロシア帝国を再建するためにウクライナに侵攻したとされる。しかし先週、NATO 事務総長のイエンス・ストルテンベルグはワシントンで失言を犯した。これは彼がうっかり真実を口走ったことを意味する。

欧州連合議会での証言

ストルテンベルグ氏は、NATOをウクライナまで拡大しようとするアメリカの執拗な推進こそが戦争

の本当の原因であり、今日も戦争が続いている理由であると明言した。 ストルテンベルグ氏の暴露的な言葉は次のとおりです。

「その背景には、プーチン大統領が 2021 年秋に宣言し、実際に NATO にこれ以上の NATO 拡大を行わないことを約束する協定草案を送り、NATO に署名を求めていたことが挙げられる。それが彼が私たちに送ってくれたものでした。それがウクライナに侵攻しないための前提条件だった。もちろん、私たちはそれに署名しませんでした。

逆のことが起こりました。彼は私たちがその約束に署名することを望んでおり、決して NATO を拡大しないことを望んでいました。彼は、1997 年以来 NATO に加盟しているすべての同盟国、つまり NATO の半分、中央および東ヨーロッパのすべてから軍事インフラを撤去することを望んでいます。私たちはそれを拒否しました。

そこで彼は NATO、さらには NATO が国境に近づくのを阻止するために戦争を始めた。彼はその真逆の立場にある。」

繰り返しますが、彼(プーチン)は NATO、さらには NATO が国境に近づくのを防ぐために戦争をしたのです。

ジョン・ミアシャイマー教授や私、そして他の人たちが同じことを言うと、私たちはプーチンの謝罪者として攻撃されてきた。同じ批評家はまた、偉大な学者であり政治家であるジョージ・ケナンや元駐ロシア米国大使のジャック・マトロックとウィリアム・バーンズを含む多くの米国の主要な外交官が長らく表明してきた、NATO のウクライナへの拡大に対する悲惨な警告を隠すか、きっぱりと無視することを選択している。

現在 CIA 長官であるバーンズ氏は、2008 年に駐ロシア米国大使を務め、「ニエツト」と題したメモの著者である。ニエツトとは「ノー」という意味です」そのメモの中でバーンズ氏はコンドリーザ・ライス国務長官に対し、プーチン大統領だけでなくロシアの政治階級全体が NATO 拡大に断固として反対していると説明した。私たちがこのメモのことを知っているのは、それが漏洩したからです。そうでなければ、私たちはそれについて闇の中にいるでしょう。

なぜロシアは NATO 拡大に反対するのでしょうか？ ロシアが黒海地域のウクライナとの 2,300 キロメートルの国境に米軍を受け入れないという単純な理由からだ。ロシアは、米国が弾道ミサイル迎撃ミサイル(ABM)条約を一方的に破棄した後、米国がポーランドとルーマニアにイージスミサイルを配備したことを評価していない。

ロシアもまた、米国が以下のことに関与したという事実を歓迎していない。70 回の政権交代作戦冷戦中(1947 年から 1989 年)、そしてそれ以降、セルビア、アフガニスタン、ジョージア、イラク、シリア、リビア、ベネズエラ、ウクライナなど、数え切れないほどの国々で行われました。また、米国の有力政治家の多くが「ロシアの非植民地化」を掲げてロシアの破壊を積極的に主張しているという事実もロシアは好まない。それはロシアがテキサス、カリフォルニア、ハワイ、征服されたインディアンの土地、その他多くの土地を米国から撤去するよう要求するようなものだろう。

ゼレンスキーのチームですら、NATO 拡大の探求はロシアとの差し迫った戦争を意味することを知っていた。ゼレンスキー政権下のウクライナ大統領府の元顧問オレクシー・アレストヴィチ氏は、宣言された。「99.9%の確率で、NATO 加盟の代償はロシアとの大規模な戦争だ」

アレストヴィチは、たとえ NATO の拡大がなかったとしても、ロシアはわずか数年後には最終的に

ウクライナを占領しようとするだろうと主張した。しかし、歴史はそれを信じていません。ロシアは何十年にもわたってフィンランドとオーストリアの中立を尊重しており、差し迫った脅威はなく、ましてや侵略はなかった。さらに、1991年のウクライナの独立から2014年に米国の支援を受けて選挙で選ばれたウクライナ政府が打倒されるまで、ロシアはウクライナ領土の奪取には全く関心を示さなかった。ロシアがクリミアの黒海海軍基地(2014年以來)がNATOの手に落ちることを懸念して、ロシアがクリミアを取り戻したのは、1783年にアメリカが断固とした反ロシア・親NATO政権を樹立したときだった。

その時でさえ、ロシアはウクライナに他の領土を要求せず、国連が支援するミンスク第二協定の履行のみを求めた。この合意はロシア系ドンバス族の自治を求めたものであり、同領土に対するロシアの主張ではなかった。しかし、米国は外交の代わりに、NATO 拡大を既成事実にするために、巨大なウクライナ軍を武装させ、訓練し、編成を支援した。

プーチン大統領は2021年末に外交への最後の試みを行い、米国・NATO 安全保障協定草案 戦争を防ぐために。協定草案の核心は、NATO 拡大の停止とロシア近郊の米国ミサイルの撤去だった。ロシアの安全保障上の懸念は正当であり、交渉の根拠となった。しかし、バイデンは傲慢さ、タカ派、そして重大な誤算の組み合わせから交渉をきっぱりと拒否した。NATO は、NATO 拡大に関してロシアと交渉するつもりはなく、事実上、NATO 拡大はロシアの仕事ではないという立場を維持した。

米国が NATO 拡大に執着し続けるのは、極めて無責任で偽善的だ。米国は、西半球でロシアまたは中国の軍事基地に包囲されることに、必要であれば戦争によっても反対するだろう。これは1823年のモンロー主義以来、米国が主張してきたことである。しかし、米国は他国の安全保障上の懸念についての合法的なものに対して盲目であり、耳も聞こえない。

つまり、そうです、プーチンは NATO、さらには NATO をロシア国境に近づけるのを阻止するために戦争をしたのです。ウクライナは米国の傲慢さによって破壊されつつあり、米国の敵になることは危険であり、米国の友人になることは致命的であるというヘンリー・キッシンジャーの格言が再び証明された。(※安齋注:日本は「友人」以上になって、致命傷を負ってしまいました)。ウクライナ戦争は米国が単純な真実を認めたときに終わるだろう:NATO のウクライナへの拡大は永続的な戦争とウクライナの破壊を意味する。ウクライナの中立性があれば戦争は回避できたはずであり、依然として平和の鍵となっている。さらに深い真実は、欧州の安全保障は NATO の一方的な要求ではなく、欧州安全保障協力機構(OSCE)が要求する集団安全保障に依存しているということだ。

.....
ジェフリー・サックスはコロンビア大学の教授であり、コロンビア大学持続可能な開発センター所長であり、国連持続可能な開発ソリューション・ネットワークの会長でもあります。彼は19人の国連事務総長の顧問を務め、現在はアントニオ・グテーレス事務総長の下でSDG擁護者を務めています。著者が Other News に送信した記事。2023年 XNUMX月 XNUMX日

<https://worldbeyondwar.org/ja/nato-admits-that-ukraine-war-is-a-war-of-nato-expansion/>